2023年11月７日３版

第116回
品 質 管 理 シ ン ポ ジ ウ ム
開　催　要　領

テーマ：日本の産業競争力向上を実現する
これからの品質経営
～品質経営のパラダイムシフト～

2023 年 11月

主催：一般財団法人　日本科学技術連盟
後援：一般社団法人　日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

第116回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演　勝ち続ける「仕組み」をつくる伝統の技のイノベーション
～挑戦を続ける獺祭の逆境経営～
旭酒造㈱　会長　桜井　博志　氏

基調講演　116 回品質管理シンポジウムの趣旨、ねらい
これからの品質経営の在り方の提案
（一財）日本科学技術連盟　理事長（116QCS 主担当）　佐々木　眞一 氏

講　演 1　ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む EARTHBRAIN の実践
㈱ EARTHBRAIN　代表取締役社長　小野寺　昭則　氏

講　演 2　イシュー別 機能連携管理のすすめ
～ビジネスモデルで先行し、現場力勝負に持ち込む新たなプロセス志向～
㈱ブランドデザイン　代表取締役
㈱ジェイテクト　社外取締役
名古屋工業大学　産学官金連携機構　プロジェクト教授　加藤　雄一郎　氏

講　演 3　JTEKT REBORN
㈱ジェイテクト　取締役社長　佐藤　和弘　氏

講　演 4　竹中工務店におけるホスピタリティ・デザインの取り組み
～京都東山計画（山荘 京大和・パークハイアット京都）における価値創造を通じて～
㈱竹中工務店　執行役員　原田　哲夫　氏

講　演 5　品質経営実践に向けた日科技連「品質経営研究会」からの提言
トヨタ自動車㈱　モノづくり開発統括部　主査
日本科学技術連盟「品質経営研究会」委員　鈴木　浩佳　氏

〔確認ください！〕品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

■品　　質 ･･･ 顧客及び社会のニーズを満たす度合い

■品質保証 ･･･ 顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄えのことではない。

■サービス・ドミナント・ロジック ･･･ 価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない

■グッズ・ドミナント・ロジック ･･･ 価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

■コト価値の考え方…顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。
提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。
つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第116回品質管理シンポジウム　プログラム

テーマ：日本の産業競争力向上を実現するこれからの品質経営
～品質経営のパラダイムシフト～

開催期間：2023 年 11 月 30 日（木）～ 12 月 2 日（土）　　会場：大磯プリンスホテル

月日	時　間	科　　目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）
11月30日（木）	19：00～20：10	＜特別講演＞ 勝ち続ける「仕組み」をつくる伝統の技のイノベーション ～挑戦を続ける獺祭の逆境経営～	桜井 博志 旭酒造㈱　会長
	20：10～20：30	＜質疑応答＞	
	20：30～22：00	GD（1）、談話室	
12月1日（金）	8：30～ 8：40	主催者挨拶	小野寺 将人 (一財)日本科学技術連盟　専務理事
	8：40～ 9：10	＜基調講演＞ 116 回品質管理シンポジウムの趣旨、ねらい これからの品質経営の在り方の提案	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟 理事長（116QCS 主担当）
	9：10～ 9：15	入替（5 分）	
	9：15～10：00	＜講演１＞ ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む EARTHBRAIN の実践	小野寺 昭則 ㈱ EARTHBRAIN 代表取締役社長
	10：00～10：15	＜質疑応答＞	
	10：15～10：25	休憩（10 分）	
	10：25～11：15	＜講演２＞ イシュー別 機能連携管理のすすめ ～ビジネスモデルで先行し、現場力勝負に持ち込む新たなプロセス志向～	加藤 雄一郎 ㈱ブランドデザイン　代表取締役 ㈱ジェイテクト　社外取締役 名古屋工業大学 産学官金連携機構 プロジェクト教授
	11：15～11：30	＜質疑応答＞	
	11：30～11：35	入替（5 分）	
	11：35～12：20	＜講演３＞ JTEKT REBORN	佐藤 和弘 ㈱ジェイテクト　取締役社長
	12：20～12：35	＜質疑応答＞	
	12：35～13：30	昼食休憩（55 分）	
	13：30～14：15	＜講演４＞ 竹中工務店におけるホスピタリティ・デザインの取り組み ～京都東山計画（山荘 京大和・パークハイアット京都）における価値創造を通じて～	原田 哲夫 ㈱竹中 工務店　執行役員
	14：15～14：30	＜質疑応答＞	
	14：30～14：35	入替（5 分）	
	14：35～15：15	＜講演５＞ 品質経営実践に向けた日科技連「品質経営研究会」からの提言	鈴木 浩佳 トヨタ自動車㈱ モノづくり開発統括部　主査 日本科学技術連盟 「品質経営研究会」委員
	15：15～15：30	＜質疑応答＞	
	15：30～15：45	GD 会場へ移動・休憩（15 分）	
	15：45～18：00	GD（2）	
	18：00～19：00	夕食	
	19：00～20：15	GD（3）	
	20：15～21：30	談話室	
12月2日（土）	8：30～10：00	GD 報告（10 分×８班　※予備 10 分）	司会：加藤 雄一郎 オーナー：佐々木 眞一 報告：各班リーダー
	10：00～10：15	休憩	
	10：15～11：35	総合討論	
	11：35～11：50	第 116 回 品質管理シンポジウム　まとめ	佐々木 眞一
	11：50～12：00	次回（第 117 回）品質管理シンポジウム案内	棟近 雅彦 117QCS 主担当組織委員
	12：00～	昼食・解散	

※ GD：グループ討論の略称
※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。
※組織名・役職は、2023 年 9 月 13 日現在の表記になっております。
※談話室は COVID-19 の感染状況等に鑑み、中止する場合がございます。

116QCSグループ討論　GDテーマ、趣旨と論点

第1班

価値創出プロセスを構築し、持続的に進化させるためのトップの役割

鈴木 浩佳（トヨタ自動車㈱　モノづくり開発統括部）
廣田 好彦（コニカミノルタ㈱ DW-DX 事業本部 シニア・アドバイザー）

趣旨

顧客価値創造を行うためには顧客との価値共創の活動が欠かせません。その活動を多くのパートナーとも連携しながら実施していく一連のプロセスを価値創出プロセスと今回呼ぶこととします。この価値創出プロセスに沿って、顧客の行動連鎖の中の様々な課題を達成することで顧客にとっての価値は高まり、結果として顧客と自社との関係性が強化され企業価値も高まっていく、そのようなWIN-WINの関係を築くことが品質経営の目指す姿です。

そこで第１班では、価値創出プロセスを新たに構築ないしは既存のプロセスから遷移させるために、全員参加のもと運営するために、環境変化やリスクに対応しながら進化させていくために、トップが果たすべき役割について議論します。まず最初に、価値創出プロセスの構築や持続的な進化のために必要な経営者の行動について議論します。続いて、その実行の際に起こりうる障害・課題を洗い出し、そのうえで障害克服・課題達成のために経営者に求められるさらなる行動や経営のしくみについて検討します。以上の内容を、過去の品質経営シンポジウムのグループディスカッションの結果を起点に議論します。

論点

❶価値共創を担う価値創出プロセスを新たに構築し、さらには、全員による運営や環境変化・リスク対応を行っていくためのトップの役割は何か。
❷上記の役割を果たすうえで想定される障害や課題は何か。
❸障害克服や課題達成のために必要な経営者の行動やしくみは何か。

第2班

価値創出プロセスの高度実現に向けた、組織内部のインターナル・コミュニケーション開発の重要性

澤田 善郎 ㈱澤田設計事務所 代表取締役
冨岡 桂子 ㈱情報工場 取締役

趣旨

多くの企業においては複数の組織が存在し、事業のパフォーマンスを最大化するため各組織が連携して企業に対して各々の貢献が必要不可欠です。しかし、複数の組織を持つ企業（特に大企業）において組織間連携に不可欠な「組織間の継続的な対話」に課題がないという企業はほとんどないではないでしょうか。どこかで自部門のみの目標に固執して全体との連携を失って自部門の部分最適を優先していることはあったりしませんか？皆さんの組織内部のコミュニケーションで課題となっていることや、逆にうまく連携がとれている事例などを共有しながら、より良いインターナル・コミュニケーションの実現を目指しましょう。そして当グループセッションにおいては潤滑な組織間連携だけではなく、各組織の対話による機能連携が新たな価値を創出する可能性や、内部活性による今までにない価値創出のプロセス形成を実現するインターナルマーケティングの実装に向けて皆さんで議論致しましょう。

論点

❶組織間連携における各社の課題や連携事例の共有
❷組織間を乗り越えて取り組まなければならないテーマとは何か
❸組織連携して共同で取り組み創出しなければならない価値プロセスとは何か

第3班

価値創出プロセスの持続的進化を支えるIT活用

後藤 英司　㈱EARTHBRAIN　PMO
阿部 賢一郎　ダイヤモンドエレクトリックホールディングス㈱　執行役員 CQO　品質保証本部長

趣旨

顧客視点に立った価値とは何でしょうか？利用者（例：消費者）であるとき、私たちはどの様なことを期待し何に価値を感じるでしょうか？B to B、B to Cを問わず私たちのビジネスの場において最も重要な要素であるこの「価値を創造する」ということに対し、試行錯誤しているのが現実ではないでしょうか？ビジネスの場面において顧客の行動や意思決定プロセスを知り、深く理解することこそが価値創造の肝であり、その一連の行動を「価値創造プロセス」として整備し、持続的に進化させることは我々の今後のビジネスの成功を決定づけるといっても過言ではありません。第３班では価値創造プロセスをより成功確度の高いものとする為に、また継続的に進化をさせる為の着想点は何か、それを支えるのに有効なIT活用とは如何なるものかに対して議論していきます。

論点

❶価値を創出するプロセスとは如何にあるべきか
❷そのプロセスの持続的な進化にはなにが必要か
❸価値創造プロセスとその進化に有効なITとは

第4班

「様々なプレーヤーが参画し価値創出を行う」ための新たなプロセスの構築

杉江 幸治（コニカミノルタ㈱ 上席執行役員 品質本部長）
江間 富世（パナソニック オペレーショナルエクセレンス㈱ 品質・環境本部 安全・品質部 品質企画課 課長）

趣旨

従来モノづくりにおける「提供する価値基準が規格化され、その達成のプロセスが論理的で分かり易かった時代（提供価値をどう差別化するかが議論の中心）」から、価値創出には「顧客の価値基準・顧客行動まで延伸される」プロセスが必要になってきている。また、「既存組織形態のもとで標準化したプロセス・自社完結のプロセス」から、「社内に限らずパートナー企業も、更には顧客も参画するプロセス」によって、価値創出（価値提供）が実現されることになります。このような「様々なプレーヤーが参画する価値創出プロセス」の構築のポイント（必要要件や品質保証の勘所など）について議論します。

論点

❶顧客価値状況の把握、顧客との継続的な関係構築等、顧客価値創出・価値向上のための新プロセスや要件はどうあるべきか。
❷様々なプレーヤーに対し、目的意識共有や役割分担適正化含め、どのように的確にプロセス構築するか。
❸様々なプレーヤーが参画する価値創出プロセスにおいて品質保証の勘所、TQMの有効性とは何か。

第5班	顧客価値創造事業の実現に関わる全ての組織を巻き込んだ方針管理の在り方			
	光藤 義郎（(一財）日本科学技術連盟 嘱託） 宮野 玲衣（ジーシーインターナショナル AG チーフクオリティマネジメントオフィサー）			
	趣旨	顧客価値創造を新しい事業として効果的／効率的に推進していくには、新たなプロセスの確立を基本に、これを運用していくための経営資源の確保、組織／機能の改革／再構築、新たな手法／ツール／仕組み／仕掛けの創出が必要となる。これに加えて、バリューチェーン拡大時代においては、この事業の実現に関わる全ての組織を巻き込み、互いに連携しつつ確実に PDCA を回していく仕組みが求められる。第５班では、こういった必要要件のうち、特に、組織運営管理ツールとして位置付けされる「方針管理」に焦点を当て、顧客価値創造に役立つ方針管理の新たな在り方について議論していく。なお、当班の議論にあたっては、2020 年より３ケ年に亘って活動した「日科技連 方針管理研究会 WG-2」の活動成果である「PT 方針管理※１」を討議の際の前提として事前共有させて頂き、その元で、この新たな仕組みを実際の組織に具体的に展開しようとした場合に直面すると思われる様々な問題／課題と、その対応の方向性について議論していきたい。	論点	❶ PT 方針管理を組織に導入する際の問題点／課題は何か。 ❷それらの問題点／課題をクリアーするためのキーポイントは何か。
第6班	価値創出プロセスがもたらす経営計画の発展可能性			
	安藤 淳二（㈱ジェイテクト 事業開発領域 領域長） 池田 祐一（JUSE エグゼクティブセミナー企画委員・講師）			
	趣旨	経営計画において、最も重要なことは、将来業績に対する信頼の獲得。皆様にとって、御社の経営計画は何点でしょうか。良い点・悪い点、それぞれどのようなところが挙げられるのでしょうか。そもそも、経営計画には何が書かれているべきでしょうか。昨今、長期投資家の重要性、人材の流動性が高まり従業員エンゲージメントの重要性が説かれている中で、いかに将来業績づくりを説得力のあるストーリーで語るか、そのために経営計画の中に盛り込むべき要素は何か、一緒に考えてみませんか？ 第６班では、価値創出プロセスに着眼し、既存事業の持続成長、新規事業を成長軌道に乗せられる経営計画策定への発展可能性を議論します。	論点	❶そもそも経営計画は誰の何を満たすべきか。 ❷そのために経営計画に盛り込むべきストーリーあるコンテンツは何か。
第7班	価値創出プロセスの実現に向けた組織機能の新結合			
	尾本 勝彦　元パナソニック　品質・環境本部 本部長 大場 重生　㈱ EARTHBRAIN　バイスプレジデント			
	趣旨	顧客価値を創出していく為に、その顧客価値を実現するサービスの開発･提供において徹底した顧客視点、特に、顧客がそのサービスを活用してどのように顧客自身の課題を解決し高次に目標を達成していくかを構想・検証することが非常に重要になる。その場合、サービスとしては顧客には分かり易くしつつも、構成される機能的には高度に組み合わせていくケースが多い。その場合専門性が必要な開発チームと、顧客視点に立ってサービスを構想・検討・検証していくチームをどのように連携させ、サービス実現のケイパビリティーと、顧客価値の実現の高度化を、合理的、効率的に両立させていくかが極めて重要になる。このプロセスをどう構築し、各専門性を有した組織機能をどう結合・連携させていくべきかを議論します。	論点	❶顧客・社会のニーズ（課題解決）に応えるために、どのようにサービス提供を構想・検討すべきか？ ❷自社のケイパビリティーを組み合わせて、サービスを開発するためにどのような機能配置にすべきか？ ❸上記の新たな方策を実現させるために、TQM をどの様に進化させるべきか？
第8班	バリューチェーン拡大時代の組織が持つべき能力は何か			
	細谷 克也（㈲品質管理総合研究所 代表取締役） 中條 武志（中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授）			
	趣旨	TQM（総合的品質管理）は、顧客・社会の満足を目指して、全員でプロセスの改善・管理に取り組む活動です。 他方、顧客・社会が仕事・生活において困っていることの解決や実現したいことの手助けを求めるようになるにつれて、異なるニーズとコアコンピタンスを持つ複数の組織が密接に連携することが必要になっています。このようなバリューチェーンの拡大、言い換えれば事業において対象とすべきプロセスの拡大に伴って、経営目標・戦略を達成する上で組織が持つべき能力も変わってきます。第８班では、顧客・社会がモノではなくコトを求めるようになる中、それに応える上でどのような組織能力の獲得・向上が求められるのか、組織能力を獲得・向上するための活動である TQM はどのように進化していく必要があるのかについて議論します。	論点	❶顧客・社会のニーズに応えるために、どのようなバリューチェーンの拡大が求められているのか？ ❷バリューチェーンの拡大に伴って、組織が持つべき能力はどのように変わるのか？ ❸そのような組織能力の獲得・向上に向けて、TQM はどのように進化する必要があるのか？

＊ GD 会場の収容人数の関係から各班 15 ～ 30 名となります。先着順となりますので、第１希望の班が定員に達した場合、第２希望とさせていただく場合がございます。

＊ 組織名・役職は、2023 年９月現在の表記になっております。

※1　方針管理研究会WG -2 が提唱したプロジェクト型（ＰＴ：Project-type）の方針管理のこと。顧客価値創造など、組織として新たに展開するプロジェクト型事業の場合、これに関係する全ての組織を巻き込み、互いに連携し、事業全体を効果的 / 効率的 / 重点的に運営 / 管理していくには、従来の年度方針管理の概念や枠組みだけでは限界があるため、その概念 / 枠組み等をある程度拡げた形で提唱した新たな方針管理の形を指す。但し、従来から提唱されているプロジェクトマネジメントとの類似点 / 相違点、メリット / デメリット等を明確化しておく必要がある。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ（事前準備等）

GD（グループ討論）ご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から事前のグループワークがスタートします。
シンポジウム当日の限られた時間の中でのグループ討論をスムーズに進行していくために、お申込み後、ご自身の所属班が決まりましたら（10/19頃）各班メーリングリストを開始いたします。
メーリングリストにて、メンバー同士の自己紹介（※１）や、意識・用語などの認識の擦り合わせ、当日の話し合う論点の絞り込み等（※２）を行って頂きます。

10 月 19 日頃	GD 参加班決定のご連絡および GD メーリングリストの開始
※１	GD メンバーリストと自己紹介のご案内を、事務局から参加者ご本人にメールでお送りいたします。 ご自身の参加する GD 班をご確認頂き、事務局からご案内するメールに従って自己紹介等をお願いいたします。
※２	GD リーダーを中心に、メーリングリストを介し GD の論点案についてメンバー間で意見交換を行って頂きます。総合討論の論点・提言の枠組みを踏まえて ①テーマについて「どの範囲に絞って討論するのか」を提示する。（GD リーダー） ②その範囲で「何を論点として討論するのか」を提案する。（メンバー） ③メンバーが提案した論点案を整理する。（GD リーダー、記録係） ＊ GD リーダーによって進行の方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、テーマ趣旨論点によっては自己紹介のみの班もございます。
11 月 17 日頃	品質管理シンポジウム開催のご案内メール送信
11 月 27 日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
11 月 30 日～	第 116 回品質管理シンポジウム開催

＊報文集は当日現地にてお配りいたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの

服　　装：
　１）楽な服装でご参加いただいて結構です。ネクタイ着用の必要はありません。
　２）シンポジウム受付時に名札をお渡ししますので、会期中胸につけて下さい。
　３）マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持 ち 物：
● お名刺（５０枚程度）
● 筆記用具
※あればGD時に便利なもの
◆ モバイルPC又はタブレット端末等
GDでは各班ごとにZoomをご利用いただけます。お席によっては、プロジェクタ画面が見づらい場合に、Zoomにログインいただけますとお手元のPC、モバイル端末でプロジェクタ投影画面をご覧いただけます。
ただし、お部屋によってはWi-Fiの電波が弱いためポケットWi-Fiもお持ちいただけると安心です。

会場のご案内（１日目）

11月30日㈭	大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシーで、大磯駅から約7分（約1,400円） 二宮駅から約5分（約1,100円） 小田原駅から約30分（約5,000円）	
	シンポジウム受付 チェックイン	シンポジウム受付・チェックインは１Ｆ客室棟玄関です。 ・17：00から受付を開始いたします。 （19：00以降のご到着の場合は、ホテルフロントに受付が移動となりますのでご注意ください。） ※詳細はＰ９館内地図をご確認ください。 【館内のご案内】 ・各部屋インターネットが無料でご利用になれます。 ・大磯プリンスホテルは全館禁煙です。 ※喫煙は、屋外の喫煙スペース（1F）でお願いします。 ※ホテル内各居室等での喫煙（電子タバコも含む）が確認された場合、クリーニング代として50,000円を請求いたします。
	夕　　食	メインバンケットホール（かもめ） ・17：30～18：45（到着が遅れる場合は19：30迄）にお取りください。 ・お飲み物はご自弁いただきます。
	特　別　講　演	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・19：00から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。
	GD	各会場（当日ご案内いたします） ・特別講演終了後、20：30から開始いたします。 ・1日目のGDは、グループで自己紹介（名刺交換等）を行って頂きます。
	談　話　室 （QCバー※）	各GDの会場 ・自己紹介終了後に情報交換の場としてください。 ・ホテル１階メインバンケットホール前に、飲み物とおつまみをご用意しております。 各グループから、数名の方が取りにきてください。 ・談話室は、会場利用の関係から22：00迄となります。

会場のご案内（２日目）

12月1日㈮	朝　食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30 ～ 8：30 の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	講　演	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30 から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。 ・会場には、お水（ペットボトル）をご用意しております。
	昼　食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：35 ～ 13：30 にお取りください。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	給茶サービス	メインバンケットホール　ホワイエ ・GD 開始前の 15：30 ～ 15：45 の休憩・GD 移動時間帯に講演会場外のホワイエにコーヒー、紅茶をご用意しております。 ・お飲み物は、そのまま GD 会場へお持ちいただけます。
	GD	各会場 ・別途、班ごとの会場をご案内いたします。
	夕　食	メインバンケットホール（かもめ） ・18：00 ～ 19：00 で立食パーティー（※）を予定しております。
	談話室（QCバー※）	メインバンケットホール（かもめ） ・会場は 20：15 からご利用いただけます。（会場は 21：30 迄。自由参加） ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。

※ご夕食の形態、談話室（QCバー）はCOVID-19の感染状況により、変更・中止の場合がございます。

会場のご案内（３日目）

12月2日(土)	朝食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30～8：30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	チェックアウト	ホテル館内　1F　ホテルフロント ・シンポジウムが始まる8：30までにお済ませください。
	手荷物	メインバンケットホール（白鳥、鶴）後方 ・貴重品の管理は各自でお願いします。
	GD報告と総合討論	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30～12：00の予定です。 ・会場入口に、GD報告資料と水（ペットボトル）をご用意しております。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席をご用意しております。
	昼食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：00～お取りいただけます。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	大磯プリンスホテルからの交通機関 ①シンポジウム終了後、QCS企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。 詳細は、当日現地にてご案内致します。 ②大磯駅、二宮駅に向かう路線バスがございます。 「大磯プリンスホテルバス停」「大磯プリンスホテル入口バス停（ホテルより徒歩５分）」 ③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントにお申し出ください。	

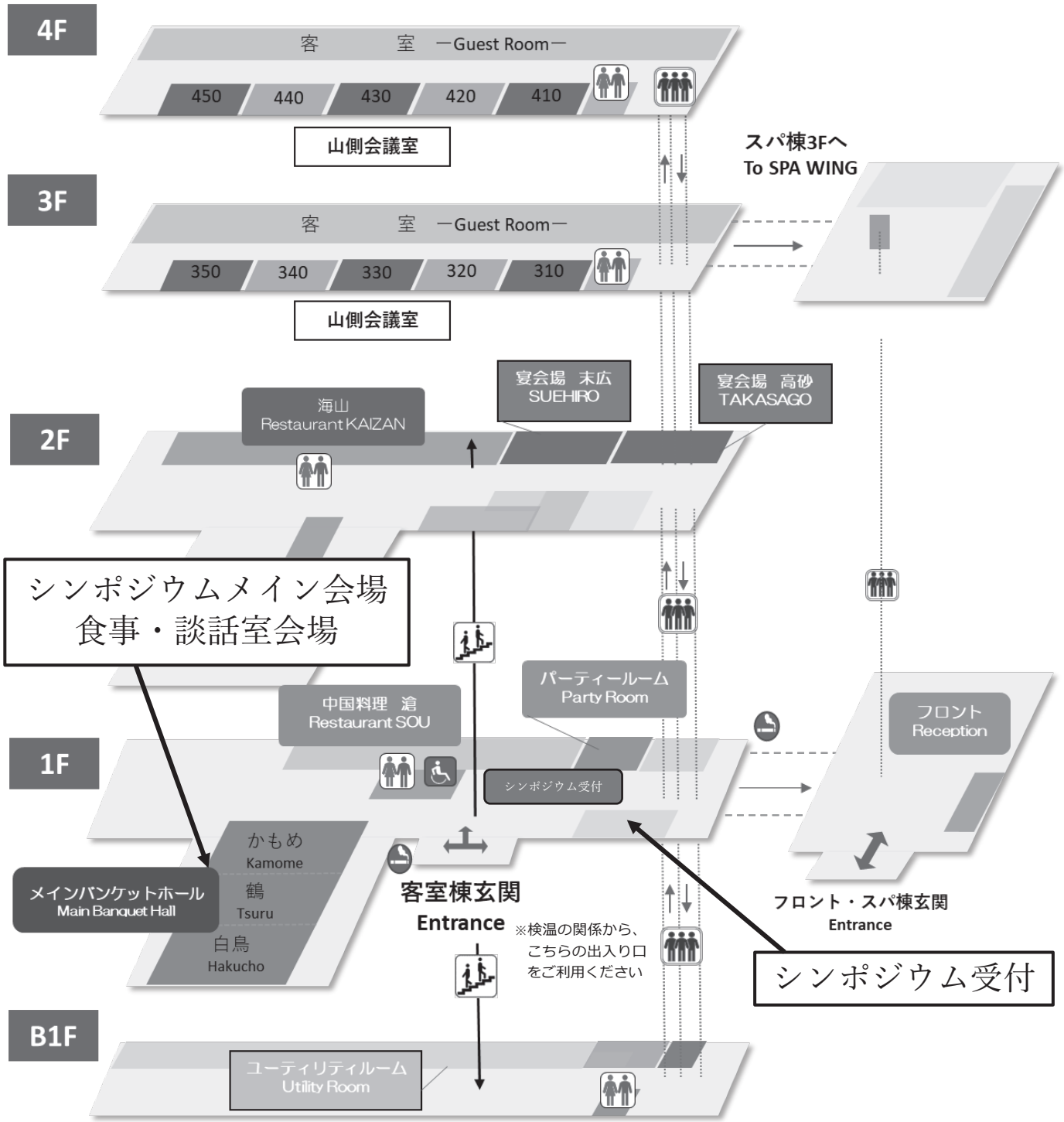
集合参加の皆様へ

大磯プリンスホテル　会場案内図

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL：0463-61-1111

客室棟



グループ討論（GD）会場

※３F・4F の山側会議室、２F 宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを通じてお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～5（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴頂けます。
※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

開催までのスケジュール

11月13日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
11月15日頃	報文集ご送付（以降お申込み順次発送） ※お申込み担当者様宛にお送りいたします。 参加者様へ動画配信サイト Deliveru よりご視聴用 ID・PWD のご連絡メール送信
11月17日頃	品質管理シンポジウムご案内メール送信（視聴方法等ご確認いただけます）
11月27日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
11月29日	参加者様へ Deliveru より ID・PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
11月30日 19：00～	第 116 回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

※当日に視聴できないとのお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。
必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声が再生されるかを確認してください。

https://deliveru.jp/pretests/video
ID・PW：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が流れるかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。
https://deliveru.jp/faq/#Q7

その他ご案内

参　加　方　法	●集合参加……現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介しPCやモバイル端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～5（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。 ◆シンポジウム申込方法 QCS専用WEBサイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/
参　加　費 ＊日科技連よりご請求書を発行いたします。	● QCS企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の1名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、46,200円／1名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、99,000円／1人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2日目）、GD報告・総合討論（3日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50名まで …… 550,000円 51～100名まで …… 880,000円 101～200名まで… 1,100,000円 ※201名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問い合せください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムのGDや総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。 ◆参加費に含まれるもの 集合参加者の1日目夕食、2日目昼食・夕食、3日目昼食 ◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の1ヵ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より2ヵ月以内となります。

その他ご案内（集合参加）

交通費	● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ●招待討論者 別途ご案内の通り
宿泊費 ＊株式会社 JTB よりご請求書を発行します。	● QCS 企業会員・団体会員 １人部屋（２泊 47,500 円）＊朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※時節柄、１部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ●招待討論者 別途ご案内の通り ●宿泊費キャンセル料 開始日の前日から起算してさかのぼって ① 11 月 23 日（木）以前の解除 － 無料 ② 11 月 24 日（金）以降の解除 － 旅行代金の 20％ ③ 11 月 30 日（木）の解除（④を除く） － 旅行代金の 50％ ④旅行開始後の解除又は無連絡不泊 － 100％ ※詳細は WEB サイトをご参照ください。 ●請求書について 宿泊費についての請求書は、旅行会社 JTB より郵送いたします。 ９ 月 29 日（金）までのお申込み ➡ 10 月 12 日（木）頃 10 月 16 日（月）までのお申込み ➡ 10 月 25 日（水）頃 10 月 31 日（火）までのお申込み ➡ 11 月 13 日（月）頃 11 月 ９ 日（木）までのお申込み ➡ 11 月 17 日（金）頃 振込期限 11月24日（金） 11 月 10 日（金）以降のお申込み ➡ 順次発送 ㈱ JTB が指定する期日までのお振込みをお願いします。
宿泊の部屋割り	部屋割は事務局に一任させていただきます。
その他	①所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。 ②食事メニューは事務局に一任させていただきます。 ※記載金額はすべて税込みとなります。

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人　日本科学技術連盟　品質管理シンポジウム担当：安隨、密、橋本、鈴木（佑）
〒 166-0003　東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL：03-5378-1215　　E-mail；qcs@juse.or.jp

※ 116QCS の宿泊に関する費用のご請求については株式会社 JTB が担当しております。お問合せの内容によっては、株式会社 JTB より直接ご回答・ご連絡させていただく場合がございます。

品質管理シンポジウム会員内規

1．一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。

2．品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員１口以上を負担する法人、団体または個人とする。

企業会員：１口につき年額 199,100 円（消費税込み）

団体会員：１口につき年額 117,700 円（消費税込み）

⑴　会員は年２回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。

企業会員：無料参加枠２名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の１名のみ）

団体会員：無料参加枠１名（通常枠）

⑵　ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。

⑶　本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料を配布を受ける。

（2022年９月１日改訂）